

フリー雀荘について

2002.11.15 金澤 正浩

雀荘という言葉をきくと、どうしても怖い人達がいると思われる。しかし、それは昔の話であって、現在は低いレートで一人でいっても麻雀ができるフリー雀荘が徐々に普及しつつある。ではフリー雀荘という所はいったいどんな所なのだろうか？

1.待つ

来店してすぐに打てるということは滅多にない。たいていは4人揃うのを待つか、ゲーム中の卓が終わってから、他の人がやめた所に案内されるかのどちらかである。どちらにしても、あと何分で打てるか断言できない。場合によっては30分以上待たされることもある。4人揃わなければできないゲームなので、人がまばらに集まるフリー雀荘ではメンツを待つ時間というものが発生してしまう。東南戦のフリー雀荘では、半荘におよそ30分から1時間のみておくといよい。卓に着いたら半荘終わるまで帰ることはできないので、時間に余裕をもって遊びにいったほうがよい。

待っている間は、メンバーに飲み物を頼んだり、雑誌を読んだりしてくつろいでいるといよい。他の人が打っているのを観戦しても良いが、打っている人の迷惑にならない程度に観戦する。また、ここで箱代として、2000円を店に渡す。

2.打つ

順番が回ってきたら、麻雀をする。相手はほとんどが赤の他人なので、始まる前に挨拶しておくといよい。ここで、麻雀をしているときによく使う言葉を説明しよう。

・代走・・・ピンチともいう。トイレに行きたくなったり、電話がかかってきたりしたら、メンバーにその場を任せるといよい。メンバーによって力が違うので指名することも可。もし弱い人しかいない場合はなるべく自分で打っていたほうがよい。

・本走・・・店のメンバーがいなくて人数合わせで打つこと。店によってはメンバーのゲーム代だけ店が負担したり、メンバーが勝っても負けても店のお金で打ったりとまちまちである。点5の雀荘のメンバーは、麻雀を打つのが仕事ではなく、接客のために雇われている場合がほとんどである。だから、メンバーといっても麻雀のうまさや打ち方は他の客とほとんど変わらない。

メンバーのマナーとしてわざと見逃したりすることは一切ない。純粋にトップをとりに行く。マナーを守らないメンバーには苦情を行ったほうがよい。しかし、打ち方やアガリについては文句はつけないほうがよい。礼儀正しくしてマナーを守ることを最重視してるところが多い。

・ラス半・・・この半荘で最後にしますといよの意味。ラス半コールを言ってもら

うと店側としてはとても助かる。ラス半の入っている卓同士をくっつけたり、メンバーが本走するかどうかを考えて卓回しができるからである。

また待っている客にも状況を伝えられるので、店の営業をスムーズにすることができる。ラス半コールはなるべくそのゲームが始まったときか、東場のうちにしておく。そうすると店は早く言ってもらった分うまく対応できる。

・アウト・・・所持金が足りなくなって店から借りること。アウトの金額がそれほど大きくない点5の店なら、厳しい審査など無くその場でお金を貸して、次に来店してから返すようになっている。とはいえ、借金は借金なので、アウトを切る状況にならないよう気をつける。

目安としては最悪の状況を想定して「ラス目で役満振ったとき」の、支払い金額をもっていなければやめたほうがよい。ちょうど0点のラスは2500円払いたが、それまでのご祝儀も考えると3000円くらいは必要である。それに役満ご祝儀などがあれば、その金額も加わるため、所持金が5000円を切っているなら無理せず帰ったほうが無難である。

・トラブル・・・雀卓が動かなかったり壊れたりしたときのこと。または客同士でもめたりした場合のこと。どちらの場合も客同士でその場を収めようとせず、必ずメンバーを呼ぶ。

3 . 終わる

終わる時はちゃんとラス半をかけて、その半荘で終わるようにする。精算は半荘一回ごとにやるので、特に精算についてやることはない。終わったら箱代を換金してささっと帰る。

参考URL：フリー雀荘について

<http://www.geocities.co.jp/Playtown-Darts/6815/free.html>